

社会福祉法人翠燿会

平成 29 年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
同上 サテライト南デイホーム
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム

障害児通所事業
グリーンヒルキッズ村上
グリーンヒルキッズゆりのき台

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人本部総務課

平成 30 年 6 月

社会福祉法人 翠燿会

法人としての、平成 29 年度の主たる報告とは、4 月の社会福祉法改定により、社会福祉法人制度改革が本格的に実施されたこと、そして 30 年度 4 月介護報酬改定に向けた準備でありました。

前者は平成 28 年度からの継続した法人の取り組みであり、経営組織のガバナンスの強化、事業経営の透明化の向上（財務諸表・現況報告・役員報酬基準等の公表等）、財務規律の強化（適正かつ公正な支出管理・内部留保の明確化・社会福祉事業等）への計画的な投資等、そして地域における公益的な取り組みを実施する責務であり、法人職員の協力によりまずは順調に進めることができました。

後者においては、3 年間経過措置であった地域加算 6 級地から 5 級地への適正運営を中心に、重度化、医療を要する利用者の入所をはじめ、通所介護の運営強化、更なる在宅福祉介護の強化、そして障害児の通所事業の安定などが挙げられますが、職員の頑張りにより一定の方向性を確立し進めることができたと考えます。

共に課題も強く挙げられます。その 1 つが人材の確保、育成、定着対策への一層の強化（職員のキャリアアップ制度充実 研修強化、外国労働者受け入れ等）、そして 2025 年にむけた指針（地域包括ケアシステム）をいかに理解し取り組むかです。

いまだ国が進める方針案と各自治体の取り組み並びに現場の声と乖離がみられ、職員も戸惑うことも事実と考えます。十分にその実態を把握しつつ、検討を重ねながら各事業を進めていく必要があると考えます。

しかしながらその主旨においても、グリーンヒル、グリーンヒル八千代台の 2 拠点、地域の福祉・介護サービスの中核となり、ご利用者が期待する、在宅を中心としたサービスから施設サービスまでの提供に日々努めることが大切と確信します。

そのためには、この厳しい変化の時代にあって「法人の安定した経営」「ご利用者、ご家族に満足いただけるサービスの徹底」「介護人材の確保と育成」「社会福祉法人の在り方の再構築」を中心に 30 年度も、ご利用者、ご家族、そして地域から信頼される法人を目指してまいります。

なお、詳細なる各事業所の報告は別紙の通りであります。

【平成 29 年度 特養・短期グリーンヒル 事業報告】

1) 目標稼働に対する実働状況

- ・平成 29 年度における特養・短期の年間平均稼働数は、115.6 (平均稼働率 96.1%)。目標値の 117 は下回る結果となりました。昨年度より、長期入所者の入院延日数は約 40 日減、また入所者延日数約 400 日増となる中で、その一番の要因については、短期入所利用日数約 620 日減だと考えます。
- ・日常生活継続支援加算 I は要介護度 4・5 の算定要件において 70%以上を維持することで現在も取得継続中ではありますが、現在の入所待機者の方々からは算定要件の要介護度 4 以上 (70%)、認知症度Ⅲ以上 (65%) を満たすことが難しくなりつつあります。
入所申込待機者数は平成 28 年 5 月で 53 件、平成 29 年 6 月で 64 件、平成 30 年 5 月で 69 件と横ばい状態。介護度別では要介護 1 が 1 名、要介護 2 が 4 名、要介護 3 が 21 名、要介護 4 が 21 名、要介護 5 が 22 名の実態としては医療依存度が高い方も多く、要介護 4・5 で特養対象は非常に減少してきています。また、その中での男女の比率は女性が 38 名、男性が 31 名と当施設の居室割合の女性 8 : 男性 2 との格差が生じている事も浮き彫りとなっています。
- ・認知症専門ケアについては、3 名のリーダーを養成することができましたが、加算要件にみたなかった為に今後の努力目標となっています。

2) 組織体制の強化

- ・セントマーガレット病院の嘱託医回診・外来受診については、良好な状態が入院者の減に繋がる反面、ターミナルケアを実施している中で主治医不在時の対応に非常に苦慮する場面があり、現場全体の中での一番の課題となりました。
- ・八千代台からの介護職員の喀痰吸引での研修において、1 名確保している現状、長時間夜勤業務に於いては対応可能な職員の減少、それに伴う深夜勤へのシフト変更による公休消化日数増となり、全体的なバランスが過重負担となりつつあります。今年度掲げた総務課との連携による迅速な介護職員の確保が出来ませんでした。
- ・利用者の介護計画書については、着実に介護職の努力により作成され、サービス担当者会議等も家族を交えて定期的を実施し、多職種連携の形が出来上がってきました。
- ・教育研修員会による喀痰吸引の実施による職員のスキルアップと共に、30 年度の介護報酬改定の加算取得に繋がりました。

H 2 9 年度医務課事業報告

グリーンヒル、グリーンヒル八千代台医務課

<グリーンヒル>

- ・H 2 9 年度の新入所者は 2 6 名であり、看取りを含め永眠された方は 2 7 名であり、1 か月の平均入院数は 3.2 名であった。
- ・感染症に関しては、インフルエンザ罹患者 4 名で、ノロウイルス罹患者・疥癬罹患者共に発生は無かった。しかし、同じユニット内に於いて、肺炎球菌罹患による入院者が 3 名続いた。3 名共予防注射未接種だった事から 30 年度は対象者の接種を実施予定である。
- ・嘱託医・セントマーガレット HP のシステムの変更により、業務の複雑化が発生し改善の途中である。
- ・看取りに関して、嘱託医不在時に外の Dr を頼んでいるが死亡確認に不安はある。

<グリーンヒル八千代台>

- ・H 2 9 年度の新入所者は 4 名であり、看取りを含め永眠された方は 5 名であった。
- ・感染症は、インフルエンザ・ノロウイルス共に罹患者は発生なく、うがい・手洗い・環境整備を実施した結果と考える。
- ・入所者 1 名が潜在性結核感染症の診断を受け、保健所より指導を受け対応をしている。

<看護計画について>

- ・看護計画立案は、グリーンヒルに於いては、昨年同様時間が取れず出来ていない。人員確保を望みます。

<医療的ケアの評価について>

- ・今年度は 8 名の評価が終了したが、協力してくれる対象者が 2 名と少なく長期間に渡り、自分の仕事の合間を見て時間を作り対応している為、負担が大きいと考える。他施設へ出向いての評価も検討をして頂きたい。

平成29年度 管理部栄養科 事業実績報告

グリーンヒル栄養管理室 グリーンヒル八千代台栄養管理室

栄養科の理念

- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
- ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

平成29年度

利用者食事摂取推奨量

(2015年版、日本人の食事摂取基準に準拠)

GH	平成29年 4月1日 現在
エネルギー	1645kcal
蛋白質	61.7g

GH八千代台 平成29年 4月1日 現在

エネルギー	1617kcal
蛋白質	60.6g

平成29、平成30年における入所者の実態

	平成29年度 グリーンヒル入所者実績			平成30年度 グリーンヒル入所者計画		
	男性	女性	平均	男性	女性	平均
入所者	25名	82名		23名	80名	
年齢	79.9歳	85.8歳	82.9歳	81.0歳	86.0歳	83.5歳
介護度	3.7	4.4	4.1	3.7	4.1	4.1

	平成29年度 グリーンヒル八千代台実績			平成30年度 グリーンヒル八千代台計画		
	男性	女性	平均	男性	女性	平均
入所者	5名	24名		5名	24名	
年齢	82.6歳	85.6歳	84.1歳	83.4歳	86.7歳	85.1歳
介護度	4.6	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4

平成28、平成29年における食数実績

	食数実績	H29年度	食数実績	H28年度
グリーンヒル	利用者	133604食	利用者	134614食
	職員	13858食	職員	12585食
グリーンヒル八千代台	利用者	51231食	利用者	50580食
	職員	6291食	職員	6980食
合計		204984食		204759食

特定給食施設の管理 フードサービス形態

- クックチル
- A セントラルキッチン
- B 院外調理(ひまわり)

給食業務完全委託方式
A [グリーンヒル特養・通所
グリーンヒル八千代台特養
B グリーンヒル八千代台・小規模多機能

A,Bについての帳票類は別途区分管理とする
・災害時発生時、食中毒発生時、マニュアルに準じる
・大量調理施設マニュアルに準じる
・衛生安全管理の維持徹底
・特別な個別膳 調整食(ミキサー)
・保存食・保健衛生の実施(前扉内消毒4回/年・クワッド1回/年)
ひまわり院外調理(セントラルキッチン)→小規模施設(サテライトキッチン)

非常用食品の確保

- ・災害対策マニュアル(保有)
- ・天災害時の調理を必要としない食事サービスとして備蓄食品
- ・施設諸行事に伴う食事支援

配膳・調理従事者の個人の衛生管理
・備蓄食品(非常用食品)の保管・資料 献立表 (有)

行事食

- ・行事企画内容により別途料金徴収することもある。
- ・個別対応食(やわらぎ膳)は誕生日会費より個別充当
- ・職員、実習生、外来者への予定実施計画

会議

栄養委員会(給食会議・NCM会議)
・経口維持 I、II 会議

グリーンヒル
定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 12回/年
グリーンヒル八千代台
日時不定期 1回/月

栄養ケア・マネジメント

基本方針
I. NCMサービス
4回/年スクリーニング実施
II. 経口維持実施(経口維持 I・II)
(医師・歯科医師による評価者)

①食事調査実施
・食事喫食量・水分摂取量・排尿量記入表
・生活と身体の状況記録(介護・看護・栄養記録)
内容 身体計測、摂取目標量、
摂取状況調査項目、栄養アセスメント

栄養管理

*食事調査評は利用者の共有個別資料とする。
②低栄養状態の改善として、栄養計画による
・食事・栄養管理、評価判定を行う。
・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品を推奨する。(但し、個別管理品は個別負担とする)

本年度の経緯と考察

- ①教育研修計画
 - ・栄養ケアシステムの向上
- ②所轄の保健所の巡回指導実施
- ③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル八千代台(SK)の給食はデリバリー方式、グリーンヒル八千代台
 - ・調理チーム結成(小規模多機能 サテライトグリーンヒル南デイホーム)(H28年4月)方式(CK)(SK)との業務は分離独自型
供食対象:利用者食・職員食
- ④施設管理栄養士のシフト編成
- ⑤給食栄養利用者向け広報誌発刊
臨地実習実施

- ・看護、介護、栄養の専門性の連携を図った
- ・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 巡回指導の指摘なし
- ・給食経営管理部門として一全面委託化
業務委託、食材料費委託
及び院外調理(ひまわり)を導入した小規模多機能
- ・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など
グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、
分離区分を共有化した
- ・グリーンヒル 8:30～17:30 (2名)
- ・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30 (1名)
- “食&栄養”おいしいお知らせ 4回/年
- ・聖徳大学人間栄養学部 3学年
- ・昭和女子大学生生活科学部 3学年

以上

平成 29 年度事業報告

グリーンヒル居宅介護支援事業所

1. 目標件数に対する実働状況

- ・ 計画作成件数・・・総合事業 月平均 32 名
給付 月平均 111 名
- ・ 新規作成件数・・・総合事業 9 名
給付 53 名
- ・ 認定調査件数・・・176 件
- ・ その他 加算等があり

2. 平成 29 年度総括

- ・ 平均計画件数は目標値達成。
→山田所長が平成 29 年 1 月に復職し、新規ケース受け入れ可能となったことにより、達成に繋がっている。
- ・ 認定調査は毎月定期的に受託し、件数増加となっている。
- ・ 利用者、家族からのクレーム等もなく、地域包括支援センターからの信頼も大きく、処遇困難と思われるケースの依頼も多くなっている。ケースに合わせ地域包括支援センター・生活支援課等 各事業所とも連携を密にし、支援している。

1] 29年度利用状況（本体通所介護）

- ・年間を通じて、1日平均利用26名を目標にサービスを行ってききましたが、目標人数には届かず、平均利用者数としては23名程度となってしまった。新規利用者は、30名程ご利用いただいているが、サービス中止の方も多くな登録人数としては10名ほど増えている状況だった。ただ、下半期において多くの新規利用者の獲得ができている部分では、他事業所からの依頼や、中重度のご利用者の依頼などが多く、来年度に繋がっていきけるものとして考えられる。今年度は、職員体制に見合うご利用者の獲得ができず、赤字の決済となってしまったが、30年4月の介護保険改正に伴い提供時間の変更を行い、収入を増やしていきたいと思っています。

（サテライト南デイホーム）

- ・年間の目標として、1日7名を目標として行ってきましたが、平均4名程度と、目標を達成することはできなかった。課題となっていた職員体制なども29年度中には解決できなかった事もあり、結果的には利用率を増やすことができなかった。30年4月より職員体制を変更し行っていきたいと考えています。来年度も、サテライト型デイサービスとして継続し本体デイサービスの八千代台拠点として行っていきたいと考えています。

30年度の目標

- ・今年度は、本体デイサービスが平均利用者数26名、サテライト南デイホームが平均利用者数7名を目標に行っていききたいと考えています。本体デイ、サテライトデイ共に4月からの介護保険改正に伴い提供時間の変更を行い、以前より時間を長くしサービス単価を高くし収入を増やし、行っていきます。また、前年度に続き中重度者への対応やリハビリ職による個別の機能訓練など、一人一人に合ったサービスを行いご利用者を獲得していければと考えます。

平成29年度訪問介護事業報告

グリーンヒル訪問介護

【1】 29年度の状況

29年度は、当初、月80人目標としていましたが、常勤職員・登録ヘルパーの退職が相次ぎ、退職者が担当していたケースを他事業所に担当してもらうなどの対応をせざるを得ませんでした。

実際の平均実績人数として、月75名程度となっています。

新規利用者の受け入れはしつつも、サービス回数の多い方などは、なかなか予定が取れず、受けきれっていない状態でした。

目標としていた職員研修の充実については、木下施設長による栄養についての講義や、ノロウイルス対策の実技などを取り入れ、すぐに役立つ研修の時間を設けました。参加者からも、普段そういった研修の機会が少ないので勉強になったとの声がありました。

【2】 30年度の目標

30年度においては、現状職員の増員も考えられず、登録ヘルパーの年齢問題もあり、今年度の目標値としては、前年同様、月の目標を80名として職員全体で取り組んでいきたいと考えています。

今年度においても、常勤・登録ヘルパーなどの補充を考えたいと思います。毎月行っているヘルパー研修も、実技指導や講義の時間を多く取り、充実させていく予定です。

【平成 29 年度 事業報告】

グリーンヒル八千代台 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

1. 目標稼働(平成 29 年度)の達成状況 (○数字は H29 事業計画の原文)

- ①稼働率(長期+短期):「月 38.5 名以上の稼働」「年間稼働率 99%目標」
⇒【達成】月平均 38.9 名 ※年間稼働率 99.9% (前年度より 1.45%UP)
- ②日常生活継続支援加算の算定継続(46 単位/日:ユニット型個室)
⇒【達成】下記要件を算定根拠とし継続。
 - ・新規入所者の内(前 12 ヶ月)介護度 4・5 の割合:70%以上
 - ・…年平均 75% (平均介護度 4.3)
 - ・新規入所者の内(前 12 ヶ月)認知症度Ⅲ以上の割合が 65%以上
 - ・…年平均 100% ※認知症専門ケア加算該当者:全体 89.2%
- ③看取り介護加算の算定継続
(死亡日 1,280 単位/前日及び前々日 680 単位/4 日以上 30 日以下 144 単位)
⇒【達成】別添資料参照。同意書・プラン・経過記録・振り返りを実施。
※多職種全体での PDCA サイクルが確立。
- ④経口維持加算Ⅰの算定(400 単位/月) ※30 年 3 月 31 日現在 長期入所者 28 名
⇒【達成】24 名 (Ⅰ:18 名 Ⅰ及びⅡ:6 名) ※自立者:1 名 経管者:3 名
- ⑤アセスメント・ケアカンファレンス・ケアプラン・モニタリングの強化
⇒【未達成】介護計画書の運用また各専門計画書の個別化については未だ確立には至らず、今後の課題として継続する。
- ⑤介護保険負担限度額認定者数:上限 10 名
⇒【達成】年平均 8 名で推移 ※開設当時より、年間的には減少傾向にある
(H30.3 月:2 段階(1 名)・3 段階(7 名))

2. 今年度の実績

- ①経口維持加算Ⅰ/Ⅱの算定
 - ・管理栄養士を中心とした多職種協働での取り組みを実施。東京歯科大および訪問歯科より専門的な指示指導・助言を下に経口維持計画書を作成し運用。
 - ※次年度より、嚥下外来においてはエースデンタルクリニックへ診察依頼。
- ②実習・体験学習の受け入れ
 - ・介護実習においては、学生に介護の基礎を伝えながら自身の振り返りの機会を。体験学習等に関しては、客観的な意見や質問の中から、介護現場を見つめ直す機会また介護現場へのご理解をいただいた。
- ③入院者数の減少
 - ・昨年度入院者数 10 名⇒8 名、延べ日数としても 313 日⇒147 日と減少し、日頃の健康管理やケアにおいて成果がうかがえる。結果、全体的な安定稼働にも繋がった。

3. 次年度の課題

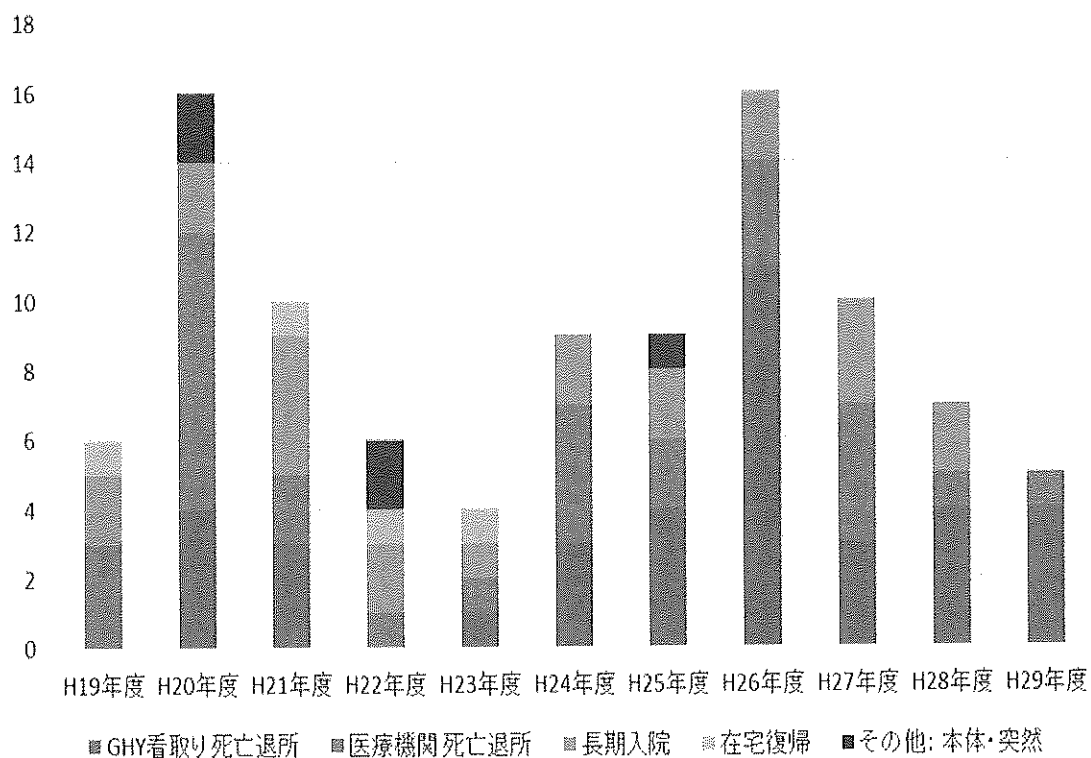
以下 3 点に課題(取り組み不十分)が残ったため、目標として継続、発展へ取り組みたい。

- ①ケアの根拠を理解しチームで共有することができる。
 - ・アセスメント・ケアプラン・24 時間シート・介護計画書・各種記録などを多

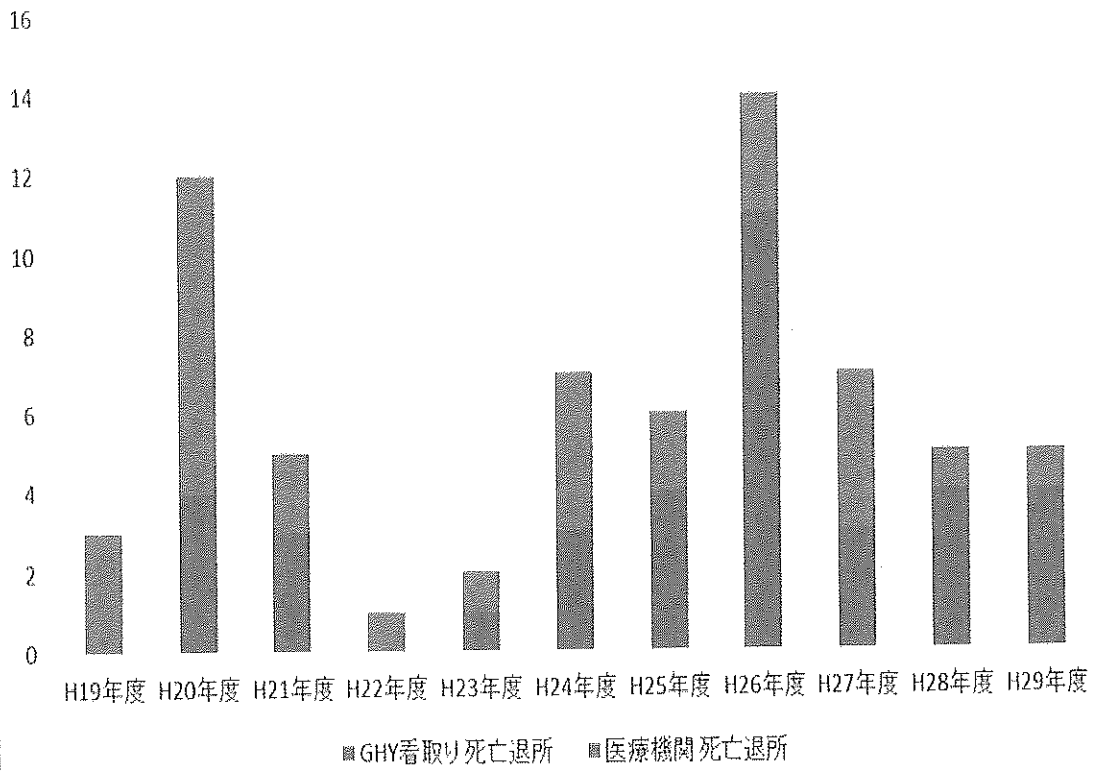
第4表 平成29年度理由別退所者数（看取り介護等の履歴（開設当初より））

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他： 本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31
H28年度	4	1	2	0	0	7	H28.4.1	～	H29.3.31
H29年度	4	1	0	0	0	5	H29.4.1	～	H30.3.31

グリーンヒル八千代台 退所者数(年度・退所理由別)



死亡退所者数(年度・場所別)



平成29年度 グリーンヒル八千代台居宅介護支援

事業報告書

1. 事業所名称
社会福祉法人 翠耀会
グリーンヒル八千代台居宅介護支援
2. 運営の方針
 - ・当事業所の介護支援専門員は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう配慮し行います。
 - ・事業の実施は、利用者の選択に基づき、多様なサービス事業所から総合的・効率的に提供されるよう配慮し行います。
 - ・事業は、常に利用者の立場に立ち、公正中立に行います。
 - ・事業の運営に当たっては、関係市町村、サービス提供事業者等との綿密な連携に努めます。
3. サービスの内容
 - 1) 利用の申込相談
 - 2) 居宅介護支援事業所の内容説明
 - 3) 契約締結
 - 4) 要介護認定の確認（未申請の場合は申請手続きの支援）
 - 5) 訪問調査
 - 6) 居宅サービス計画の作成・説明及び同意
 - 7) 居宅サービスの提供
 - 8) 居宅サービス実施内容の経過観察、再評価
 - 9) 次回要介護認定手続きの支援
4. 利用対象者
要支援（介護予防）、要介護の介護認定を受けた、介護保険証を所持の方
5. 営業日時
平日 午前8時30分から午後5時30分
祝日 午前8時30分から午後5時30分
休業 土曜・日曜および12月31日から1月3日
6. 利用定員
要介護認定者 約95名
7. 職員配置
管理者 1名（兼）主任介護支援専門員1名 介護支援専門員2名
8. 会議
定例事業所会議 毎週火曜日 午前 9時00分より ※開催日変更あり
9. 行事等
併設、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所等の行事支援
10. 研修等
介護支援専門員現任研修、認定調査員研修、やちよケアマネネットワーク開催研修、関係機関開催研修に参加、介護支援専門員実務者研修の実習受入

以上の内容を計画とした。

平成29年度 グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業所
居宅サービス計画実績

項 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	93	96	100	95	94	95
新規利用者	7	7	6	2	3	7
休止・中止利用者	4	4	2	7	4	6
要介護 1	28	31	31	31	29	31
要介護 2	31	29	32	30	29	32
要介護 3	20	20	19	18	21	17
要介護 4	9	11	13	12	10	10
要介護 5	5	5	5	4	5	5
合計	93	96	100	95	94	95
要支援 1	8	7	7	8	7	8
要支援 2	4	4	5	5	6	6
予防委託 合計	12	11	12	13	13	14

項 / 月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
請求件数	92	90	88	89	90	97
新規利用者	6	5	2	4	3	10
休止・中止利用者	9	7	4	3	2	3
要介護 1	32	30	28	26	25	24
要介護 2	33	30	29	29	30	33
要介護 3	13	13	14	16	18	19
要介護 4	7	9	11	11	11	15
要介護 5	7	8	6	7	6	6
合計	92	90	88	89	90	97
要支援 1	7	7	8	7	8	7
要支援 2	6	6	6	6	7	7
予防委託 合計	13	13	14	13	15	14

年間目標件数 1, 140件 平均95名

年間実績件数 1, 119件 平均93名(新規62名、休止・中止55名)

：平成29年度の振り返り

- 1) 介護支援専門員の異動(退職)による、前任担当支援者の引き継ぎにおいて、後任担当支援者との重複期間、利用者・家族の意思尊重等改めて考察する。
- 2) 平成29年度、3名の職員により要介護認定者居宅介護支援の業務を概ね目標に近づけたと感じている。又併行する地域包括支援センターからの要支援認定者の介護予防居宅介護支援対応には大変厳しい。
- 3) 本部居宅介護支援事業所との合同会議は有効であり、次年度も継続としたい。

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護

【平成 29 年度 事業報告】

1. 目標

平成 29 年度の小規模多機能については、目標値である 27.5 名登録以上については、年間平均 28.75 名（稼働率 99.1%）と、想定以上の数値をだすことができました。常に利用者数の安定化を意識し、地域住民に密着した生活の支援・利用者及びご家族の満足度に重点置きながら行なってきた結果だと考えている。少子高齢化が急速に進行する中、「地域包括ケア」のために投入可能な財源や人財は無尽蔵ではない。限られた資源を最大限に有効活用することが必須となる。このため買い物支援・配食などの一般的な生活援助については、介護福祉士等の専門職が担うのではなく、地域の互助組織やボランティアなどを活用することを考えていく必要がある。支援を必要とする人が求めているものを小規模多機能型居宅介護は住民とともに考え、かかわっていくことが重要であり、地域ケア会議等への積極参加が不可欠である。また、単に人手が足りないという数的不足だけを意味するのではなく、必要な場面で必要なスキルとモチベーションを備えた人材を確保できないという質の問題である。したがって、人材不足は、成長を妨げ、ひいては事業運営そのものに大きな影響を与える可能性をもっている。今起こっている人材不足は、人材確保を重要な課題だと捉え、人の育成と活用を戦略的に行ってこなかったここしばらくのあり方の問題点が表面化していることから、法人本部との協働による急務の課題解決が必要と考えている。

2. 内容

① 小規模多機能稼働率向上の取り組み

- ・基本サービスに加え、配食・見守り・地域交流・家族支援等のニーズに対応した支援の実施し、サテライトとの協働による日常生活を支える面的仕組みの強化を継続し、より一層加速していくことが大切である。
- ・事業所内の他部署（特養・SS・居宅介護支援・訪問介護・栄養課・キッズルーム）法人本部（特養・SS・通所介護・居宅介護支援など）や勝田台地域包括支援センター、八千代台地域包括支援センターとの多職種連携・協働を強化・実行・連携関係をより強固のものにしていく必要がある。

サービス提供について

- ・[サービスの質の向上] という点においては、各自が情報を収集する事への意識がこの 1 年の間に高まったと考えている。この点は 30 年度も徹底していきます。
- ・ご利用者の対応についても、朝の申し送りやユニット会議等での情報交換を行なって共有している事を継続していきケアの統一に向けて取り組んでいきます。
- ・企画においては時に、準備不足や当日の調整不足を感じることがあり、職員間で事前にしっかりと打ち合わせ・申し送りの徹底を行ない、ご利用者に楽しんでいただけるプログラムの提供に職員一同で取り組んでいけるようにしていきたい。
- ・その方の馴染みの関係や地域資源も活用し、地域の中での生活支援という意識を持ち寄り添い機微に触れることができるような支援をこころがけていきたい。
- ・ICT を活用し、訪問時の記録の効率化や特養と同様の介護記録ソフトを導入し、家族等へのお知らせ業務の二重転記の省略化を計る。

3.10 周年記念の実施

本体の協力体制のもとで、平成 29 年 10 月 1 日（日）【記念式典・ボランティア感謝の集い】

テーマ ～皆様のご支援感謝を胸に～

第一部 ショパンサロンにて 約 60 名

第二部 八千代台グリーンヒルにて 約 100 名

詳細は、ホームページにて

4. 平成29年度の稼働表

平成29年度のグリーンヒル八千代台の小規模多機能居宅介護の報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
月末登録利用者数	27	29	28	29	29	29	29	29	29	29	29	29	2875
訪問平均回数/週	4.12	4.33	4.5	4.49	4.26	3.81	4	4.12	4.28	4.22	4.07	4.82	425167
通い平均回数/週	3.19	3.14	3.07	3.28	2.97	2.81	2.72	2.53	2.84	2.3	2.7	3.01	288
泊まり平均回数/週	0.48	0.61	0.79	1.04	0.94	0.98	1.24	1.1	1.1	0.9	0.84	0.65	088917
訪問回数/月	481	557	551	521	494	442	464	479	496	490	473	559	500583
利用回数計	911	1040	1024	1021	947	882	924	904	955	869	812	983	939333
当該月日数計	816	899	856	899	930	845	888	865	893	861	884	890	877167
利用者一人当たり平均回数/週	7.81	8.09	8.36	7.98	7.14	7.3	7.3	7.3	7.5	7.1	7.6	7.7	759833
平均介護度	2.4	2.4	2.4	3.0	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.8	2.6	2.7	27
新規利用者数	1	3	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	091667
登録中止利用者数	3	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	091667
稼働率	93.1%	100.0%	96.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%
前年度稼働率	96.6%	100.0%	96.6%	100.0%	96.6%	100.0%	96.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%
前年度との比較	-3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%

以上

小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台

【平成 29 年度 事業報告】

1. 目標

平成 29 年度のサテライトについては、29 年度平均介護度 1.5(28 年度より+0.2 上昇)要支援中心から要介護者へのベース変更ができています。目標値である年間平均 12 名登録〈目標稼働率 100%〉については年間平均(稼働率 99.3%)という結果となった。予定していたサテライト事業として本体へのケース移行など安定して行なう役目を果たすことが継続的にでき、本体(八千代台)が稼働率 99.1%となり昨年度よりもより一層、本体事業の安定化に寄与する役割が果たせていると考えています。

小規模多機能型居宅介護の制度創設当初の基本的な考え方は「通い」を中心として、利用者の様態や希望に応じて、随時「訪問」や「宿泊」を組み合わせてサービスを提供することで、中重度となっても在宅での生活が継続できるよう支援するものであった。しかし、この 10 年の実践の中で小規模多機能型居宅介護の姿は多様化している。このような中でこれからの基本的な考え方は、日常生活圏域内の、要援護者の様態や希望に応じて、「通い」「訪問」「宿泊」および多様なニーズに対応する機能を組み合わせてサービスを提供することで、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援する。またあわせて、生活圏域内の多様な支援を要する方々を支援し、地域包括ケアの担い手となることが急務であり、そのために人材の育成及び人材の確保が必要となる。

2. 内容

① 小規模多機能稼働率向上の取り組み

- ・ 本体であるグリーンヒル八千代台との連携体制を整えていくと共に、中長期的な要介護状態の重度化の過程を把握することが求められている。また、紹介経路として、全国統計では要介護度が重くなるほど「居宅介護事業所 38.8%」の割合が増加し、要介護度が軽くなるほど「地域包括支援センター17.8%」の割合が高くなる。「知人・近隣 11.1%」・「病院 14.4%」経由では要介護度 4・5 の重い利用者が多い傾向となっているので地域との関係づくりが必要不可欠である。

② サービスについて

- ・ 勝田台ステーションギャラリー展を開催、地域の行事に参加することができました。
- ・ 平成 29 年 1 月～12 月 サンコーポ便りに活動報告の記事を載せて頂きました。
(今後は、サンコーポ自治会員として、編集部門の一部を担い、継続的に発行出来る様に協力する)
- ・ 地域の餅つきやゴミ拾いや「おとなの学校」を通しての住民主体のレコードコンサートなど地域との交流を図ることが出来ました。
- ・ 地域サークルにより地域の方々が集える場を作ることができました。
- ・ 事業所だけの地域貢献では限られた職員人数だけでは難しく、エコキャップやベルマークを学校や幼稚園に届けたり、登録者以外の方に対しての地域の安心拠点としての役割(相談できる場所づくり)は十分には果たすことが出来ませんでした。
- ・ 「地域の拠点」として、地域になくなくてはならない事業所となるためには、登録者を自らのサービスだけで支援することだけではなり得ない。小規模多機能型居宅介護の登録者を支えるにも地域の皆さまとともに支える必要がある。その地域には多様な課題があり、小規模多機能型居宅介護の専門性も地域にとって必要とされると考えられるので、地域に根差すことは、事業所と地域の相互の支援関係が必要である。

3. 5 周年記念の実施

本体の協力体制のもとで、平成 29 年 10 月 1 日(日)【記念式典・ボランティア感謝の集い】

テーマ ～皆様のご支援感謝を胸に～

第一部 ショパンサロンにて 約 60 名

第二部 八千代台グリーンヒルにて 約 100 名

詳細は、ホームページにて

4. 平成 29 年度の稼働表

平成29年度のグリーンヒル勝田台の小規模多機能居宅介護の報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
月末登録利用者数	12	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	11.92
訪問平均回数/週	6.31	6.83	7.27	7.33	6.9	8.5	8.7	8.8	8.6	8.3	7.9	7.57	7.75083
通い平均回数/週	1.9	2.16	2.46	2.43	1.77	2.15	2.1	2	2.3	1.87	2.1	3.00	2.18667
泊まり平均回数/週	0	0	0	0	0.23	0	0	0	0	0.16	0	0.36	0.0625
訪問回数/月	325	363	374	352	331	375	418	423	412	398	381	363	376.25
利用回数計	423	478	501	469	427	470	519	523	523	496	483	500	484.333
当該月日数計	360	372	360	372	387	330	372	360	381	372	336	342	362
利用者一人当たり平均回数/週	8.22	8.99	9.74	8.82	7.72	10	9.8	10.2	9.6	9.3	10.1	10.2	9.39083
平均介護度	1.2	1.3	1.4	1.6	1.6	1.6	1.4	1.4	1.5	1.5	1.3	1.7	1.5
新規利用者数	2	1	1	0	1	0	0	0	1	1	1	3	0.91667
登録中止利用者数	2	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	3	1
稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.3%
前年度稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.3%
前年度との比較	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	-8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

以上

【平成29年度 事業報告】

グリーンヒル八千代台 訪問介護 (明るく・楽しく・元気よく)

1. サービスの重点目標

- 1) 地域のご利用者が、安心して在宅で過ごせるよう、訪問介護サービスによる生活支援を展開する。また、サービスの質を確保するため、『サービスマニュアル“ハート・トゥ・ハート”』を活用し、点検する。
- 2) ケアプランに沿った訪問介護計画・援助計画に基づく、統一したサービスを提供する。
- 3) 正確で速やかな情報伝達・報告に努める。

2. サービスの内容

- 1) 介護サービス（身体介護・生活援助）
- 2) 介護予防サービス（日常生活支援事業）

3. 利用対象者

- ・要支援・要介護認定において、要支援1・2または要介護状態であると認定された高齢者

4. 営業日

- ・月曜日から土曜日まで
- ・8:30～17:30までを基本とし、利用者のニーズに対応するため、営業時間外についても柔軟に対応する。

5. 目標数値

- ・1か月目標40名

6. 職員配置

- ・管理者1名（兼務）、サービス提供責任者2名、訪問介護員8名（登録型）

7. 会議

- ・定例会議及び研修会・・・・・・・・・・毎月末日 17:30～
- ・グリーンヒル指定訪問介護との合同会議・・・随時
- ・施設全体会議・・・・・・・・・・奇数月 18:00～19:00

以上

平成29年度 グリーンヒル八千代台訪問介護
訪問介護サービス実績

項 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績人数	39	37	40	41	41	40
【内訳】						
：要介護利用者	26	24	25	25	24	22
新規利用者	0	0	2	0	0	1
休止・中止利用者	0	2	1	0	1	3
：介護予防利用者	6	4	4	3	2	0
新規利用者	0	0	0	0	0	0
休止・中止利用者	0	2	0	1	1	0
：日常生活支援総合事業者	7	9	11	13	15	18
新規利用者	1	2	2	2	2	3
休止・中止利用者	0	0	0	0	0	0
項 / 月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実績人数	41	42	44	43	41	44
【内訳】						
：要介護利用者	23	25	26	25	24	23
新規利用者	2	2	2	1	0	1
休止・中止利用者	1	0	1	2	1	2
：介護予防利用者	0	0	0	0	0	0
新規利用者	0	0	0	0	0	0
休止・中止利用者	0	0	0	0	0	0
：日常生活支援総合事業者	18	17	18	18	17	21
新規利用者	0	0	1	0	0	4
休止・中止利用者	0	1	0	0	1	0

※ 介護予防 (要支援1・2の認定者に対する訪問介護)

※ 日常生活支援総合事業者 (要支援1・2の認定者に対する市町村事業で行う訪問介護)

：平成29年度の振り返り

- 1) 介護予防訪問介護は、指定事業の有効期間満了の残期間を残すが、平成30年3月31日をもって介護保険サービスが終了のため、1月末日、(八千代市)総合事業の指定申請を行った。
- 2) 少数精鋭ではあるが、訪問介護サービスを必要とする方々に地域包括支援センター、他事業所と連携しサービスを提供できた。

平成30年5月15日

グリーンヒルキッズゆりのき台
管理者 宋倉 富子

グリーンヒルキッズ
【平成29年度 事業報告】

1. 目標について

- ① 稼働率 年間稼働率22.3%
3月1日開設により、3月1ヶ月のみの営業である。
4月からの新1年生の利用を見込んでの開設のため、3月は利用児童5名である。

2. 内容について

稼働率向上の取り組みについて

4月からは、新1年生の利用開始により、1日定員10名の利用が見込まれる予定である。しかし、4月の法改正により、1日定員10名をこえることができないため100%の稼働率は難しくなると思われる。

3. サービス提供について

- ・4月からの利用児童数に対応できる職員数の確保が急務である。
- ・利用児童増に伴い、指導員の増員も必要となるため、人材雇用に努める。
- ・グリーンヒルキッズの特質である、『学習支援』『生活スキル向上のためのSST』の更なる充実をはかるため、職員の資質向上・スキルアップの研修をおこなうこととする。
- ・『父母の会』の開催により、保護者間の情報共有や情報交換の良い機会となっている。今後はこれをさらに発展させ、地域との連携につながる支援の一助にしていきたい。

グリーンヒルキッズ ゆりのき台

【平成29年度 事業報告】

1. 目標について

① 稼働率 年間稼働率22.3%

3月1日開設により、3月1ヶ月のみの営業である。

4月からの新1年生の利用を見込んでの開設のため、3月は利用児童5名である。

2. 内容について

稼働率向上の取り組みについて

4月からは、新1年生の利用開始により、1日定員10名の利用が見込まれる予定である。しかし、4月の法改正により、1日定員10名をこえることができないため100%の稼働率は難しくなると思われる。

3. サービス提供について

- ・4月からの利用児童数に対応できる職員数の確保が急務である。
- ・利用児童増に伴い、指導員の増員も必要となるため、人材雇用に努める。
- ・グリーンヒルキッズの特質である、『学習支援』『生活スキル向上のためのSST』の更なる充実をはかるため、職員の資質向上・スキルアップの研修をおこなうこととする。
- ・『父母の会』の開催により、保護者間の情報共有や情報交換の良い機会となっている。今後はこれをさらに発展させ、地域との連携につながる支援の一助にしていきたい。

平成 29 年度 勝田台地域包括支援センター事業報告

1. 勝田台高齢者状況

勝田台生活圏域人口 16,291 人・高齢者人口 5,619 人・高齢化率 34.5%となっています。勝田台の人口及び高齢者人口には大きな変化は見られないが、勝田台地域の高齢化は急速に進んでいることが伺えます。

2. 事務所来所者状況

平成 29 年度、地域包括支援センターに 1 年間来所した延べ人数 1,985 人の実績がありました。9 月に事務所移転をしましたが、移転後に 1,146 人の来所者の実績がありました。

事務所移転したことにより、相談の方が増加したが、関係機関の方がやや減少した事を感じています。理由としてはお客様駐車場の確保がない事や通りがかりに立ち寄るなどの方が減少したことも予想として考えられます。

3. 総合相談支援業務実績

1 年間の相談延べ数 2,462 件（内訳 電話 1,209 件・来所 750 件・訪問 482 件・その他 21 件）となっています。主な相談内容①介護保険に関する相談 886 件②医療・健康に関する相談 242 件③認知症に関する相談 178 件④介護に関する相談 545 件となっています。相談者は本人及び家族からの相談が多くなっています。

4. 権利擁護事業実績

虐待通報 8 件（延べ対応 303 件） 消費者被害の相談延べ 4 件あり、老々介護になっており介護の不適切や認知症の理解不足などの原因が見られる。

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業実績

○個別地域ケア会議 43 回開催

○地域包括支援センター啓蒙活動

・勝田台地域各老人会に出席（銀の四葉会 16 名・三四和会 21 名・七和会等 20 名）

・民生委員・児童委員定例会議に毎月出席

・三世代交流ファミリーフェスタ夏祭り

・勝田台元気クラブ毎月開催（参加延べ数 281 名）

・八千代高校と共催クリスマスイベント

（学生手作りプレゼントを 100 個学生と地域包括職員で在宅の高齢者に届けている）

・在宅医療・介護連携フォーラム参加

○認知症に関する取り組み

・認知症サポーター養成講座・・・延べ 101 名

緑町自治会館（26 名） マキノ薬局（6 名） 八千代高校（40 名）

ふれあい大学 19 期 OB（29 名）

○ケアマネ支援

- ・事例検討会（6包括合同会議）
- ・民生委員と勝田台地域の介護支援専門員との交流会
- ・ケアマネ相談に関する後方支援

○地域づくり

- ・わがまち元気プロジェクトin勝田台
担い手養成講座開催（グループさくら結成）
地域資源マップ作り（地域有識者参加）

6. 介護予防普及啓発事業実績

- ・いきいき教室 15回開催 参加人数 49名（延べ187名）
6月 4回コース 参加者15名（延べ49名）
11月 6回コース 参加者21名（延べ81名）
2月 5回コース 参加者13名（延べ57名）

7. 地域連携の為の会議

- ・運営推進会議
 - ①小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台
 - ②ニチイケアセンター八千代勝田台
 - ③デイサービス・元気庵
- ・民生委員児童委員定例会議（毎月）
- ・八千代市高齢者虐待防止連絡会
- ・八千代市生活支援体制整備事業協議体会議
- ・地域包括支援センター各専門職会議

8. 介護予防（要支援1・2）プラン作成 実績

1年間請求件数 1985件 地域包括支援センター延べ請求数753件 委託延べ請求数1233件 1年間新規78件となっています。

地域包括支援センター職員担当ケース制限に伴い、居宅介護支援事業所に委託せざるを得ない現状となっています。委託事業所の受け入れには限度があり委託先に苦慮しています。

平成29年度 総務課 事業報告

総務課

- I 外国人技能実習生受け入れに向けて、技能習得が円滑に進むように関連部署と連携しながら取り組む。また、帰国するまでの日本滞在期間中に安心・安全に過ごせるように生活支援を行う。
- II 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に関する、有効活用・経費削減・適正管理を行う。

- I プロジェクトチームを編成し介護業務の習得や日常生活全般の支援を行う。
⇒日本語の習得に時間を要しているため、技能実習生の入職が H30.11 に延期される予定（H30.4 現在）
引き続き、プロジェクト内での検討を継続し受け入れ態勢を構築する
 - 職員とのコミュニケーションづくり
⇒H29.6 ベトナムフェスティバル視察
 - 指導日程 指導方法 指導担当者の選出 職場環境整備 他
⇒指導担当者を中心に、カリキュラム他検討中
 - 安心・安全な生活環境の提供（生活習慣の理解 住環境整備 他）
⇒住居選定・申し込み、生活用品・家財他の洗い出し検討中
- II 「資金（カネ）」の適正管理
 - 定期的な取引がある業者の取引価格を見直し、適正化を図る。
⇒継続して取り組む
 - サービス事業ごとに毎月の収支状況を把握し、管理運営会議にて明確な報告を行い、適正な経営状態を目指す。
⇒毎月の予算管理・収支状況の把握に努め、管理運営会議で報告検討した
 - 財務諸表等電子開示システムを理解し正確に入力する。
⇒福祉会計サービス協力のもと継続して取り組んでいる

以上